

日銀金融政策決定会合プレビュー

7月会合の焦点：利上げペース加速の示唆はあるか

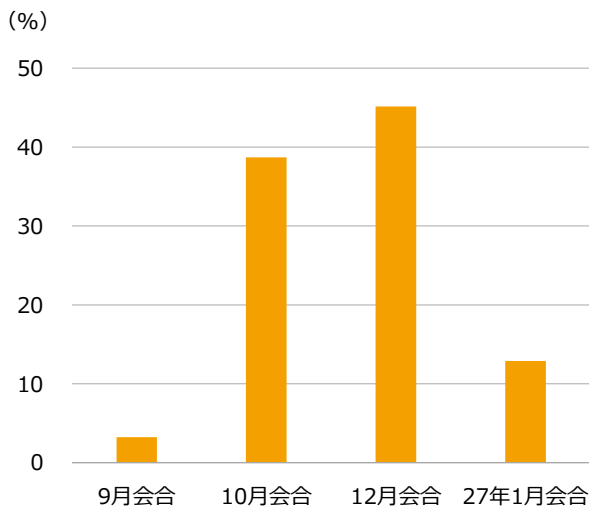
2026年7月23日

利上げペースは半年に一度を見込むも、加速・鈍化双方に留意

7月の日銀金融政策決定会合（30日・31日）では、利上げペースの加速が示唆されるかが焦点として急浮上しています。背景にあるのは、経済・物価のリスクバランスの変化です。中東情勢を受けてもなお、AI・半導体関連の旺盛な需要に支えられ景気は底堅く推移しており、景気下振れリスクとともに、需要の弱さを起点とする物価下振れリスクも後退しています。他方、基調的な物価上昇率が2%の物価目標に近づく中、日銀内では物価上振れリスクへの警戒感が強まっています。企業間の価格転嫁の動きは、石油・石炭製品などの川上にとどまらず、プラスチック製品など川中製品にも波及しています。さらに半導体メモリー発の価格上昇圧力や歴史的な円安も加わり、そのリスクが一段と意識される状況です。

もっとも、当社は市場コンセンサスである半年に1回程度の利上げペースを想定しており、次回利上げ時期を12月とみています。日銀が基調物価を測る柱の一つと位置づける中長期の予想物価上昇率について、家計・企業・専門家の共通成分を抽出した当社試算値は、原油高が続くなかでも2%への接近に留まります。トレンド対比で加速する様子はうかがえず、現時点で利上げペースの調整を急ぐ状況にはありませんが、物価上振れリスクを踏まえれば、より早いペースでの利上げが検討される可能性は十分にあります。ただし、利上げへの慎重姿勢を示す政府の意向を考慮すると、ペース鈍化にも留意が必要です。利上げペースを見通すうえでは、7月会合の植田総裁の記者会見におけるスタンスが注目されます。

次回利上げ時期はいつか

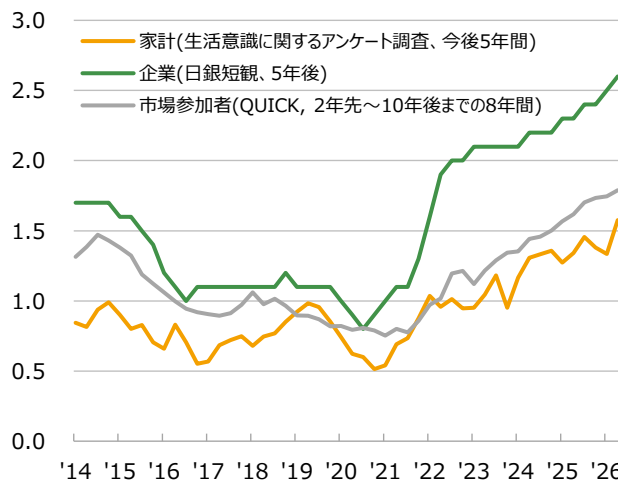


※日銀ウォッチャーを対象に実施したアンケート調査
※2026年7月調査時点

(出所) 日経QUICKニュース社

中長期の予想物価上昇率（各種調査）

(前年比、年率平均、%)



※家計は5択選択肢情報を用いた修正CP法による、企業は全規模・全産業ベースの物価全般の見通し、直近値は2026年6月

(出所) 日本銀行、QUICKより大和アセット作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント